

鹿児島市で記録されたコトブキギク（キク科）

久保 紘史郎¹・岩 篤²

Tridax procumbens (Asteraceae), newly recorded in Kagoshima City

KUBO Koshiro¹ and IWA Atsushi²

はじめに

コトブキギク *Tridax procumbens* は熱帯アメリカ原産のキク科の多年草で、全世界の熱帯から亜熱帯地域に分布を広げている。国内では1958年に沖縄県、1979年に三重県四日市市、1987年に横浜市で記録されており（清水, 2003）、本州太平洋岸から沖縄・小笠原諸島に野生化しているとされる（副島, 2017）。

鹿児島県内では2001年10月18日に鹿児島県奄美市笠利町大字万屋宇宿漁港で採集され、神奈川県立生命の星・地球博物館に収蔵されている標本記録（KPM-NA0273128）があるが、これまで県本土での記録はなかった（初島, 2004）。今回、鹿児島市照国町で見慣れないキク科植物を発見し、これがコトブキギクであったため、鹿児島県本土で初めての記録として報告する。

1 資料の詳細

鹿児島市照国町のコトブキギクは第二著者である岩が、2020年9月23日に道路際の植え込みに見慣れないキク科植物が生えていることに気づいたことに端を発する。その後、岩が2020年11月22日に開花している株を採取して、鹿児島県立博物館に同定を依頼した。

キク科コトブキギク属は国内ではコトブキギク一種だけが確認されている。提供された資料を確認したところ、①茎は分枝して這うように広がる、②頭花は長さ20-30cmの柄の先端に単生する、③舌状花は4-5枚あり、クリーム色がかった白色で、舌部の先端が三裂する、などの形態的特徴からコトブキギクと同定した。

採集地はヒラドツツジの植栽帯で、周辺にはメヒシバ、ベニバナボロギク、カラスウリなども見られた。

2 考察

発見した翌年の2021年9月29日と11月30日に鹿児島市照国町の採集地にて、定着しているかを調べたが、コトブキギクの発生を確認することはできなかった。コトブキギクは国内では、沖縄県と小笠原諸島に帰化している（副島, 2017）が、本州で最初の産地となった三重県四日市市では、1979年の記録以降、生育は確認されていない（太田, 1985, 1997, 2010）。また、神奈川県でも1983年の初記録以降確認されていない（神奈川県植物調査会, 2018）。また、東海地方などに散発的に発生するとされており（清水他, 2001）、今回の鹿児島県の発見も、他の生育地から運ばれた種子から一時的に発生したもので、定着するには至らなかったと考えられる。

現在のところ鹿児島県内では鹿児島市と奄美市の2例の確認にとどまるものの、奄美群島など温暖な地域では、既に定着している可能性も十分考えられる。本報告を機に、多くの情報が集まり、現状把握が進むことを期待したい。

謝辞

本報告をまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館の田金秀一郎氏には、コトブキギクの同定に関する助言及び、文献資料を提供していただいた。また、三重県総合博物館の森田奈菜氏には、三重県でのコトブキギクの分布に関する資料を提供していただいた。この場を借りてお礼申し上げる。

証拠標本

鹿児島県鹿児島市照国町, 31.592738° N, 130.551364° E, 2020年11月22日, 岩篤 *s.n.* (KAP20210117s, KAP20210118s)

1 鹿児島県立博物館：〒892-0853 鹿児島市城山町 1-1 2 鹿児島市

引用文献

初島住彦 (2004) 九州植物目録, 343pp. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島県.
神奈川県植物誌調査会 (2018) 神奈川県植物誌 2018, 1803pp. 神奈川県植物誌調査会, 神奈川県.
太田久次 (1985) 三重県帰化植物誌, 149pp. ムツミ企画, 三重.
太田久次 (1997) 改訂 三重県帰化植物誌, 246pp. ムツミ企画, 三重.
太田久次 (2010) 新版 三重県帰化植物誌, 316pp. ム

ツミ企画, 三重.

清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 (2001) 日本帰化植物写真図鑑, 554pp. 全国農村教育協会, 東京.
清水建美 (2003) 日本の帰化植物, 500pp. 平凡社, 東京.
副島顕子 (2017) コトブキギク属. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (編) 改訂新版日本の野生植物5, pp. 363, pl. 233. 平凡社, 東京.



図1 ヒラドツツジ植栽帯から生えるコトブキギク
メヒシバとベニバナボロギクも確認できる



図3 花柄と頭花
20-30cmほどの花柄を伸ばし、先端に頭花を単生する



図2 茎葉の様子
ヒラドツツジ植栽内を分枝した茎が広がる



図4 頭花の様子
先端が3裂した舌状花が5枚付く